
真剣で浅井に恋しなさい！

とよ。

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣で浅井に恋しなさい！

【Zコード】

Z9699X

【作者名】

とよ。

【あらすじ】

食中毒で死んだらしい俺はビリ○ンさん体型の自称神に真剣で私に恋しなさい！の世界に転生させられたらしい。まあ気軽に生きていいじゃないか！

（この小説はある意味作者の歴史知識披露の場？そして作者はまさかの原作未プレイ！というバカなクソガキが書いてる小説です）

ふるるーぐ前編！やで～。（前書き）

初投稿です。歴史大好きな作者が書く関西弁な小説です！』意見！
ご感想！待ってます。

ふれ〜前編〜やで〜。

「んあー・・・・」
「えいえいやせー!」

田を覚ますと、ビコーンさんみたいな体型のオッサンがいた。

「誰がビ〇トンじやー!」

唐突にビ〇ンさん体型のオッサン駆してビコーさん叫んだ。

「なんですかー?」
「なんですかー?」

「儂はビ〇ケンでもビコーでも無いわー! 儂は神じやー!」

・・・ビコーさんはキレやすい性格のようだ。そして頭が軽く逝つてゐりしこ。

「はあ・・・ほんと、その自称神さん事ビコーさんが俺に何の用なんですか?」

「おぬし信じておらんの?・・・まあ良い。率直に言えばおぬしは死んだ。食中毒での。」

俺の死因どいの武天〇師が飼っていた不死鳥と一緒に・・・

「やうなんか・・・俺、死んじゃつたんか・・・」

「あいつや?あいつさつ認めたの?」

そりゃ自分の死因教えられたら、ねえ……

「早速で悪いんじやが何処か漫画やアニメの世界に転生してくれんか?」

「転生かー!僕は何処の世界に行くんです?」

「おぬしの転生先はあみだくじで選ぶんじやー。」

俺の聞き間違いか?

「はい・・・?あみだ?」

「つむー!あ・み・だ・く・じ・じや」

(「のブート○ヤンプ野郎殴つて良いー!良いよなー?俺の人生どんだけどうでもええねん!?)

主人公がビリーズ○ートキャンプに対し明確な殺意を抱いた瞬間、
であった。

♪ルルル～♪前編～やで～。（後編を）

今更感丸出しのバー○キャンプ

ふりわーぐ後編ー やでー (前書き)

あみだくじー あみだくじー 引いて楽しいあみだくじー

「まああみだを選ぶのじゃー。」

まだ言ひしゆよ。ビニーさん・・・わひとともな選び方無かつたんかいー。

まあしゃーなこかに選んだらやないかーー。

「えじゅ・・・」それで

「えーっと・・・おぬしの転生先は真剣で私に恋しなやこーの世界じゃな。」

・・・ん?何?アーメ?ゲーム?

「おこー、ビニーさん!真剣で私に恋しなやこーって何やねん!」

「ビニーではなこと言つておぬしがー!まつたく・・・真剣で私に恋しなやこーとは武林を贋み尋常ではない強さを持つ女の子達に囲まれた武士娘恋愛アドベンチャージャー!」

「つーかビニーさんよーーあんたは俺をなんちゅう世界に放り込むつむつやねん!」

「おぬしがあみだ引いて選んだんじゅうひがー願いを叶えてやるわ。早つやえー。」

「ボーネーさん、ビニーのボンガやねん・・・」

「女の子が尋常じゃないほど強いんやろ？んじや その世界で最強にしてくれ！ええか？」

「それはちょっと難しいの。向こうの世界での最強の人物と同レベルまでなら良いぞ？」

「んう・・・わかった！ それでええわ。一つ目の願いはイケメンにしてくれへん？ 出来る？」

「それぐらい容易い事じゃーでもそんな事で良いのか？」

「前世モテへんかつてん・・・振られては泣き、振られては泣き、
その繰り返しやつたんじやー！」

「・・・最後の願いはなんじゃ?」

おい！そこはスルーすんのかい！もうええわ・・・

「頭良うしてくれ。高校時代のテストいつも赤点ギリギリやつて
ん。」

自分で言つて悲しなつてきたわ・・・

「うむ。わかつた。では楽しい転生生活を。」

床が消えた・・・そして落ちた！

そこで俺は意識を失った。

ふるーぐ後編一やで（後書き）

ビリーさん・・・今後出演機会があるのだろうか・・・？

第一話「生まれ変わったやつた」やや（記書き）

「の前小谷城行つておもつた！

浅井は良いですね～！

ご意見、ご感想お願いします。

第一話「生まれ変わったやつた」「やで〜

浅井家

浅井家とは近江の国人であり、北近江の戦国大名である。

元来、浅井家は本性を藤原氏とする、京極家の譜代家臣であった。しかしその京極家は浅井亮政が浅井家を継承した際に家督を争う御家騒動が発生。

その際、亮政は浅井郡の豪族、浅見貞則と共に当主高清の長男である高延を後継者に推し、高清と対立。亮政と貞則は高清とその次男高吉そして高吉を推す上坂光信を追放。

これ以降、京極家は国人一揆が主導する事になるが、高清を追放する際に共に戦つた貞則が専横を極めたために亮政は貞則を追放、これ以降国人一揆の盟主となり京極家中の実権を握る事になる。

これが戦国大名浅井家の始まりである・・・

SIDE?

あれ？ 体が自由に動かん？

つーか体ちっさなつとるやん！？

何やこれ！アカン！なんか色々な意味でアカンつて！？

「御朱印帳」

しかもしゃべれくんやん！？

「あ、い、あ、い、起きたやつたの？お、しめ、変、や、ま、し、よ、り、ね～」

「！」！「！」！「！」

俺の空しい叫びが部屋に響いた。

第一話「生まれ変わったやつ」やや（後書き）

ヒロイン決まってない！ヤバいです。
次はちよつと更新遅くなるかもです。

第一話「力」の誘惑?」やで〜（前書き）

「意見」感想待つてま〜す。

第一話「カーニの誘惑？」やで～

俺こと浅井政隆は転生者や。

おとんは戦国時代から続く浅井家の末裔らしい、浅井政綱。気の良い親父や。

おとんが言うには浅井家は戦国時代、織田信長に攻められて滅亡しているらしいねん。でも当時の当主である浅井長政の継室お市の方との子、万寿丸。そして側室との子、七郎つて人が生き延び浅井家は血筋を絶やすらず現代の世に継承していくらしいわ。

ちなみに母とは俺が生まれてすぐに離婚したらしい、おしめ一回変えてもうた事しか覚えてへんわ。まあ俺が赤ん坊の時分に俺が寝てる横で修羅場が繰り広げられてたけどな・・・

まあそんな歴史ある家庭に生まれて早十年、今日は北陸・加賀にいる、おとんの旧知の友人に会いに行くらしいねん。加賀言うたら石川県やろ、ここ近江長浜から加賀かあ。地味に遠いなあ。

などと思つている間に着いたらしく・・・福井に！

・・・いやなんでやねん！なんかおとんが「越前ガーニ食いに行くし福井に一泊してくわ～」とか言いだしやがった！

「いや！俺もカーニ好きやけど！友人に会いに行くんとちやうんかい！俺もカーニすきやけど！」といつツツ ノリノリの満載なツツ ノミをしつかり入れておいた。

「でもあのクソ親父、あ～ダイジョブ、ダイジョブ。あの人優しい
さかいに、許してくれるって、後で着くの明日になるって連絡入れ
とくし～。」とか今日泊つてカニ食つてく氣マンマンで言いやがつ
た！

次の日
・
・
・

さあ加賀行くぞー！と意気込んでたらおとんが、「みやげ持つてい
くからちょっと待つててー」と俺に言つてきた。

まあ良いか、みやげ持つて行くぐらにしなきや相手に失礼やんな・・・
・と思い「良いで。はよ買つてきてな。」と言つたのが運の吸きや
つた。

・・・・・・・・・帰つて来ねえええ～～～～！～～～～おい！もう夜
なつとるやないか～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

すると「あ～」めんめん可愛らしい女の声につかまつてもって……とか言つておどんが帰つてきた。

「こんのボケ~~~~~！！！何がちょっと待つてて~じゃ！もう夜やないか！もう終電過ぎとんねん！」と三つとおとんのスルースキルが発動された！

「今日は遅いし力二食いに行こか！」

そしてまた今日も福井を満喫した主人公であった。

第一話「力一の誘惑？」やで～（後書き）

福井と言えば朝倉家！浅井家と同盟を組んでたとこですね。いま話題の某しゃべる犬父の実家が一乗谷ですがこの朝倉家の居城は一乗谷城なんですね～！

次回オリキャラのプロフィールでも書きます！

ふるふいーる紹介やで～

随時更新あり（前書き）

?の部分は後々更新します。

「意見」「感想お待ちしております。

ふるふいーる紹介やで〜

随時更新あり

浅井政隆

身長 183センチ (高校生時)

血液型 O型

誕生日 9月1日

一人称 僕

あだ名 政隆 マサ

武器 日本刀「浅井一文字」

職業 ?

好きな食べ物 和食全般

好きな飲み物 日本茶

趣味 家に伝わる書物を読んだりする

特技 釣り (バス釣りなど川釣り)

大切なものの 友人や家族

苦手なもの ?

尊敬する人 浅井家歴代当主

近江長浜の出身者。

戦国時代の名家である浅井家の末裔であり次期当主である。
しかし本人は浅井家という家柄に捕らわれず誰にでも気さくに話しかける為友人が多く、家族を大切にしている。

基本めんどくさがりで、「めんどくさい事・だるい事・疲れる事」は基本しない主義であるらしい。

ちなみに目上の人にはしつかり敬語を使う。

ふりふいーる紹介やで～

随時更新あり（後書き）

?の事は部分は後々更新します。

第二話「ともだちひとい、ええよね。」せや（前編）

初原作キャラ登場です。

「意見」感想よろしくお願ひしますー。

第三話「ともだちって、ええよね。」やで

加賀

加賀百万石と称され槍の又左と言われる豊臣五大老である、前田利家が治めた地である。

黛邸

「大ちやん來たで～。」

「おどん反対の家から人出てきてんけど・・・」

「おっホンマや！大ちやん久しぶり～。」

出てきたのは氣の優しそうな男の人と俺と同じ年か一つ下ぐらこの女の子やつた。

「政綱本当に久しぶりだな。お前の子が生まれて以来か？」

「そやね～。ほれ政隆、挨拶せえ」

「お初にお目に掛かります。浅井政綱が子、浅井政隆で～」ぞいいます。以後お見知りおきを。」

「ははは。そう堅くならんで良いよ。私は黛大成。ゆつくりしていつてね。それじゃ由紀江、政隆君に御挨拶なさい。」

そう大成さんが言つとおどおどしながら可愛い女の子があわてて口

を開いた。

「あつああああのつ・・・まつまままま」

アカンフオローしたらなー！」

「落ち着いて。大丈夫やしなー。」

「あつ、ちよつと落ち着いてくれたかな・・・

「あつあの一黨由紀江です。よひじくお願ひしますかー。」

「由紀江ちやんな。よひじくー・俺は浅井政隆。好きなよひ江呼んで
な。」

「はーー・じゃあ政隆をとお呼びしてもよひ江でしょうか?」

「うそ。戻いで。じゃあ俺は由紀江ひ江呼んでええ?」

「わらわひ江ですよー・政隆さんー。」

「やつたぜー。まゆつちーーこきなつ名前で呼ぶ仲にまで進展して
んじやねーかー。」

・・・ん!・?なんや!・?なんか聞こえたぞ!・?

「オッスー・オラ松風。まゆつちの友達だぞー。」

「えーと松風ね。よひ江。」

由紀江は面白こ基町持つてんなあ・・・

「えじや俺と由紀江。そして松風は友達やな。」

「せうひー。せうひー由紀江は固まつた。

「あれどひたんだ由紀江? 由紀江もーん?」

すると由紀江は「初めてのお友達ですー。やつましたよ松風ー。」

「おひまゆつちー! オラも友達ができる嬉しこぜー!」

なんか終止喜んでた・・・

ちなみに後で松風について聞いてみたら松風は九十九神がストラッ
プに憑依した存在らしい、神といえばビリー元気にしとるかなー・・

第三話「ともだちひといええよね。」せや（後編）

松風書くの難しいです。

第四話「エーだるこつて疲れぬやん、しかも怖いし……」やだ～（前編）

今日はおもひも出でになこ・・・
「意見」感想をお待ちしています。

第四話「えーだるいって疲れるやん、しかも怖いし……」やで

おはいんばんちわ、俺だ。

突然だが、皆さんは父の友人がめっちゃヤバい人ならどう対応する？

俺の場合…………逃げる……

いやだつてさーおとんの友達の黒さんはね、国から帶刀を許可されてんねんで！

もつなんといつかあかんやろ！だつて刀やで！

KATANA

刀言つたらあれやん日本刀やん！日本刀て言つたらもう……

逃げるつて言つたけどわかるやろ！ホンマアカンねんつて！

まあこじままで言つて何やけど最終的に逃げ切れず捕まった。

つーかおとこんなに足、速かつたんや……

ところがで簡単に言えば、剣聖ひと黒大成さんに修行付けてもらつてまーす……

おとんは「大ちゃん、政隆逃げるかもしけんしみつちり修行してあげてね。あ！あとボク仕事あるし帰るわ。また迎えに来るし。政隆、頑張れよ。」とだけ言い残し近江長浜に帰りやがった。

あんのクソ親父~~~~~!!!!

第四話「えーだるいって疲れるやん、しかも怖いし……」やで～（後書き）

戦国時代の日本刀の達人と言えば新陰流の上泉信綱先生。新当流の塚原ト伝先生。中条流の富田勢源先生。一刀流の伊藤一刀斎先生。吉岡流の吉岡憲法先生。一羽流の諸岡一羽先生。柳生新陰流の柳生宗嚴先生などが特に有名ですね。

ふるふいーる紹介やで〜（オリキャラ編）（前書き）

今回は主人公の父である浅井政綱さんのプロフィールです。
ご意見ご感想お待ちしております。

ふるふいーる紹介やで～（オリキャラ編）

浅井政綱

身長 187センチ

血液型 O型

誕生日 8月27日

一人称 ボク

あだ名 おとん 政綱

武器 色々

職業 なんと！色々

好きな食べ物 やっぱ、色々

好きな飲み物 なんだかんだと、色々

趣味 旅先での食べ歩き

特技 料理（和洋中すべて作れるらしい）

大切なものの 友人や家族

苦手なもの 離婚した妻

尊敬する人　浅井家歴代当主

主人公である、浅井政隆の父。

浅井家の現当主である。

いつも息子政隆を振り回している。

ちなみに政隆のめんどくさがりな性格は政綱の影響である。

「ふりふいーる紹介やで～（オリキャラ編）（後書き）

「」意見「」感想お待ちしております

第五話「サヨナラガールフレンド」 もや（前編）

「意見」感想お待ちしております。

やつぱり松風つて難しい。

第五話「あやつりあわせ」

おとさんが帰つてから、三日が経つた。

「政綱のやつが君を一か月ほど預かっておこなんだよ。」

「…ん？ 事はまだ修行の日々が待つてゐるつてわけ？」

「ウソだと言つて！ ウソだと言つてよーーー？」

この一連の流れがあつて、黛家の居候になつた俺やつた。

まあその事を話した時の由紀江は…

うん、後で聞いた話だが凄くよろこんでたらしく、やつこや初めての友達つて言つてたしな。

ちなみに今、俺と由紀江は一緒に蕎麦屋に来てこる。

由紀江がすんご遠慮がちに「一緒にどこか行きませんか？」つて誘ってきたやかいにまあ別に断る理由が無いし、飯食べに行へことになつた。

ちよつと前大成さんが由紀江は蕎麦が好きつて言つたし

「じやあ俺のやつで蕎麦食べに行こかー」つて言つたら、

由紀江が「政隆さんとおもひつぱー」つて慌ててたけど

俺が「気にせんとこへへや、たまには男らしこじこ由紀江に見せた
いやん。」「

つて言ひたら、顔が赤くなつて俯いてもつた。

俺なんかした？

まあそんな事があつて蕎麦屋に来たといつわけだ。

俺と由紀江はさるの蕎麦を注文した。

由紀江と話してこむつむに由紀江が運ばれてきた。

由紀江は上品に食べるな。

由紀江が食べてる姿を眺めてる

「まさひらは食べねえのか？それともまゆつちに見とれてたのか？
つて松風に言われてもうたわ。

「うそ、あー、食べるで。いや、ね由紀江が蕎麦を上品に食べてる
なあつて思つてたらホンマに見とれてもうたわ。」

「まゆつちーまゆつちーまゆつちー脈ありなんじやねえのかー？」

「あつあつあつあつあつあつ

なぜまた赤くなる？

そんなこんなで一緒に蕎麦を食べ終えて、締めに蕎麦湯を飲んでから家に帰った。

帰りに大成さんと奥さんをして沙也佳ちゃんのお土産にお団子を貰つて帰つたらめつけられました。

乐しく一日やつたな。明日からも修行頑張るや〜！

・・・ホンマは頑張りたくない無いけどな。

第五話「サヨウナリトーテム」 セル（後編）

「意見」感想お待ちしております。

第六話「飯が旨いと、良いけれど、不味ければ生きていけないとおもひねど」や

「意見、感想お待ちしております。」

第六話「飯が旨いと、良いけれど、不味ければ生きに行けないとおもひねど」

おはよひ、 じんじわわ、 じんばんわ、 僕だ。

今日はやつぱり修行をしている。

「やあつー！」

「踏み込みが甘いぞ、 政隆君。」

「わいれなんなのー？泣きそつ・・・

ていうかさ、 大成さん、 なんか知らんけど、 修行の時になると、 人が変わるというか・・・

表情とかは普段と変わらず優しいねんけどなんていうの？ 無迫っていつの？ もう駄目・・・

「政隆君、 今日はここまでにしておこうか。」

「はーーーありがとうございましたー！」

ああやつと終わった、 ホンマアカンでこれ。 竹刀で人が殺せそうな強さんやねんな。

俺、 一応ビリーで強くしてもらつたはずなんやけどな・・・

まあ良いや。

修行終わったしひどい風呂浴びて、たらふく食うぞー！

今日の味噌汁は由紀江が作つたらしい。

「由紀江、今日の味噌汁も美味しいで。良い嫁さんになれるんちゃう？」

卷之三

また赤くなつた。ちよつと前からこんな感じなんやねんな。**風邪**かな?

「政隆君、政綱から電話があつてね、明日迎えに行くから待つてね」だつて。「

「わかりました。」

あれ由紀江の表情が少し暗くなつた、ありやあ、やつぱ俺が帰ると友達が松風だけになつちゃうからかな～？と、言つても松風は・・・

「由紀江、んじゃまた帰つてからも修行しに遊びに行くし寂しなつたら家に電話してな」。

「ね、あれ? また来てくれたよな~。」

「はい！是非遊びに来てください！」

これで長浜に帰つてからもたまに黒邸に修行しに来なきや行けなくなつた俺であつた。

第六話「飯が面いと、良いけれど、不味けりや生きて行けないとおもひねど」や

松風難しいです。

この頃後書きに松風難しいとめりやくぢや書いてる気がします

第七話「刀？えつー今は帶刀禁止の中やでー～」やでー（前編）

「」意見「」感想お待ちしております。

第七話「刀？えつー今は帶刀禁止の中やでー？」せどー

帰つてあました長浜ー。

黒邸から長浜に帰る途中にまつぱつとこつかなとこつかおとんが
帰りに

「小浜でふぐ食べに行くぞー。ほんでつこでお前の好きな釣りも
行こかー！」

はこつーーの流れね！

行きしなにも「カ一食べに行くぞー。」とか言つてたやんーていう
かホンマにおとんの暴走を止められる技を覚えたい・・・

「政隆ー、由紀江ひやんと仲良かやつたやんー。どしたん？何
かあつたん？」

「別に？由紀江の家に今度遊びに行く約束しただけやで。それよ
りおとん・・・なんで毎回どつか用事行くたびになんか西にもん食
つて田的でに辿り着くのに予定の二~四倍掛かんの？」

「そりやー、どつか行くんやつたひ西にもん食べて楽しまな
アカンでしょー？」

そのせいで俺はこつも田的でに着くひ西にもん食べて楽しまなー

でもまあ一応無事に、帰つてこれたし良かった良かった。

帰つて来たは良いものの、久しぶり過ぎてなんか家が懐かしく感じるわ。

「政隆～！」おとんが呼んでる。

「そんじや黙での修行も終えたんやし刀をあげよつ～。」

「刀!? 何それ聞いてない!?

「大ちゃんから聞いたで～、修行頑張つたんやね～。だから家に伝わるこの刀をあげるわ～。」

「あらがとう、おとん。刀の名前はなんて言つん?」

「浅井一文字やで、浅井長政公愛用の刀やつたらしい。焼失したと思つてたらしいねんけど家の倉整理してたら出てきたんだつて。」

「なんか凄い刀なんやね～。その前に倉に置いとくんやつたら置いたつて事ぐらいちゃんと覚えとかんかい・・・」

「いや～結構前からみんな置いてあつた事忘れてたみたいやで。たしか大正の時代ぐらいから所在不明やつたらしこし・・・」

「・・・」

「・・・」

「ま、まあ大事に使うわ。あらがとうおとん。」

「うん、家宝やなんから大事に使いや。」

ひつして浅井一文字という名の愛刀を手に入れた俺やつた。

第七話「刀？えつー今は帶刀禁止の中やでー。」やでー（後書き）

「」意見「」感想お待ちしております。

第八話「川神の鉄爺さんは化け物か！？」やで～（前書き）

PV21974アクセス、ユニークアクセス5472人らしいです。こんな小説と言えるのかわからない小説を凄い人数の方が見てくれてるんですね！

ご意見ご感想お待ちしております。

第八話「川神の鉄爺さんは化け物か！？」やで～

スラマッパギ、スラマッシャン、スラマッマラム、俺だ。

加賀から帰つて来て早一か月経つ。

そういうやおとんがちよつと前「川神に行かな……」とか「鉄爺さんとルーチャんに……」とかぶつぶつ独り言呟つとつたなあ、川神つて何処や？

「政隆～！川神行くぞ～！鉄爺さんとルーチャんに会いに～～～」

いや、え――――――！（安〇さん風）ダルい！疲れる！めんどくさい！あかん、またおとんの事や・・・絶対行きしなにまだじつか行きたいとか言いだしおる！

それだけは・・・それだけは！勘弁して下せ～！

まあ俺が渋つてゐつちひつつの間にか電車に乗せられてた・・・

「あれ？おとん、川神行くまでじつか寄らへんの？」

「うそ、今回は鉄爺さんに会いに行くし、鉄爺さんを怒らせたりしたらヤバいし、まあそんなことで怒らなことと思ひナビ念こな念をついてね。」

なんやと・・・あのやおとんが素直に田町に直行！？あり得ない！旅行や挨拶回り、ほんで買い物とかおとんと一緒にじつか行く時は絶対にじつか寄り道するのに！

加賀の時は力ニ! 帰りはふぐ! なのに何故川神に行く途中には何処にも寄らない!?

どんだけ恐ろしいんや! その鉄爺さんつちゅう人は! 川神の鉄爺さんは化け物か!?

「次は、川神、川神、」

なんやと! ホンマにおとんが寄り道せず目的地に着いてしまった。

「はあー、着いたな。政隆。じゃあ鉄爺さんとルーチャんに会いに行こうか!」

おとんテンショントップがつてると俺は川神の鉄爺さんに会つて考えただけで恐ろしい。あのおとんが恐れる位の人や、警戒を怠らない様にしよう。

第八話「川神の鉄爺さんは化け物か！？」やで～（後書き）

「」意見「」感想お待ちしております。

第九話「恋のマサタカ伝説ー?」やで~（前書き）

「意見」感想お待ちしております。

第九話「恋のマサタカ伝説！？」やで～

川神院

関東三山の一つ、厄除けの寺院として名高ぐ市の名前になるほどのが
場らしい。

「遠い所から御苦労様。ゆっくりしていくんじゃよ。」

・・・あれ？これが鉄爺さん？優しそうなおじいさんやん・・・

確かに初め見た時に「仮装ですか？」つていう格好してたけど（女装ですか？とは思わんかったで・・・）そんなにおとんが恐ろしがる程の人やと思えんねんけど・・・

「鉄爺さん、久しぶりです～。お孫さんお元気ですか？」

「つむ、凄く元気じやぞ、元気すぎて困るべりりこ・・・。してそ
この子は？」

「おお！紹介するの忘れてました！政隆挨拶せえ」

！？川神院とかおとんとか関係ない！？いきなり挨拶せえって振られ少し困るよ！おとんもいつの日か私を見捨てる！？そんなの嫌だ！？人生続けたい！？

長生きしたい～！～

・・・といつのは置いといて「お初にお目に掛かります。浅井政綱が子、浅井政隆と申します。以後お見知りおきを。」

「つむ、宜しくの、政隆くん。儂は川神鉄心。」川神院の代表じや。」

「して鉄爺さんルーチャンは何処にいるんです?」

「ルーは今一子の修行の相手をしておる。」

「そうですか。ではまた後ほど会いに来ます。政隆お前は川神初めてもやひ、せせしどりか遊びに行つてこ。」

俺じいじの辺の土地勘一つも無いんやけど・・・まあええか。

「そんじや遊びに行つてきます、鉄心さん、おとんを頼みますね。」

「わかつた、政綱をしつかり見ておくからこいつてらっしゃい。」

いい人やな、鉄心さん。んじやどりか行こかー!」

1時間後

「アカン!迷つたー!?」

第九話「恋のマサタカ伝説!？」やで～（後書き）

「」意見「」感想お待ちしております。

W A W A ○ A

第十話「迷子かー？な・・・な、なんの話ですかー？」やで～（前書き）

「」意見「」感想お待ちしております。

第十話「迷子つーへな・・・な、なんの話したすつーへ」やでへ

絶賛迷子中、俺だ。

「マシコマロ食べる~？」

急に女の子がマシユマロ食べるか聞いてきた。ちよどええわ、川神院への道を聞こづ!

「うーん、どうも、マジムアロマも、うまい匂いがする~?」

何個ももつてええの？君の分無くなんて？

「うん……でもあける！！」

この子が食べれんのはかわいそこのやうに一緒に食うか?

ほなら一緒に食べよか?みんなで食べる方が上手いで?

なんでこんなに喜んでんのやろか?

—— なあ君の名前は? 「

「僕？僕は小雪！」

「小雪か～、ええ名前やな。俺は浅井政隆つて言つねんよろしくな、小雪！」

「あつがとうーまたこいしょマシコマロベアハーフー。」

「そやねじやあ俺らは友達や！！」

「友達！？ほんとに！？」

「そや、友達やで、小雪。」

つーか反応由紀江とよう似とんな？初めての友達パターンちょっと多い？まあ今は小雪を落ち着かせなきや。

「大丈夫か～、小雪。なんかつらい事でもあつたんか？俺はしばら
く川神院に居るからまた遊びにきいや？」

「もう遅いし帰らなアカンな、じやあまたな。」

「うん！ またね！」

・・・あーつ！小雪に川神院までの道聞くん忘れてた～！～～！

二時間後川神院の修行僧の方が俺を探し出してくれた、ありがとう
！修行僧様！！

第十話「迷子かー？な・・・な、なんの話ですかー？」やで～（後書き）

「」意見「」感想お待ちしております。

第十一話「川神院つて城見たぐじつこ」やで～（前編）

「意見」感想お待ちしております。

第十一話「川神院つて城見たぐいひつこ」せでへ

俺は修行僧様と共に川神院に帰つていた。

「修行僧様、わざわざ申し訳ありません。」

修行僧様は「？」的な顔をしていた・・・

まあ何はともあれ帰つてこれたわ。

「お前が浅井政隆か？」

「・・・えつとどひらさん？ストーカー？なに、新手の修行僧様狙いの少女なん？今夜の君はアーマル？フ・シ・ダ・ラ・ミ・ダ・ラ」

「誰がフシダラだつ！？」

「ガウッ！！」

「バシッ！！」

「ん？なんで急に殴つてくれんの？危ないやろ～。俺おひつぢやうよ？それともなに？そういう趣味なん？いやあ最近の子は怖いね～。でもあいにく俺はソッチ系じゅ無いんだよね～。」

「私の攻撃を受け止めた？なかなかやるな！お前！」

「えつ！？ソッチ系発言スルーかい！？君なかなかおもろいな！名

前は？」

「私は川神百代！それより政隆！私と死合おう！」

「やだ。」

「つー？ 何故だ！？」

「めんべくせいに嫌。」

「めんべくせいだと！？」

「うん。めんべくせい事したない。」

「ん～・・・」

「おーイ、百代！政隆君！モウ夜遅いんだから続きは明日にし
て早く寝るんだヨー！」

「えつとあなたは？」

「おー！ルー！私の邪魔をするな！」

「ワタシはルー・イーと書うね、百代、死合いたいのはわかるナビ
今は我慢するヨ。」

「わうじゅよ、百代。死合つしてももう遅い明日にしなせ。」

「じじー。」

「あ～鉄心さん。おとんは？」

「政綱は帰つたよ、政隆君を預かつてほしこと申つておつたわ。」

「わつかりました～。んじゃ明日からよひこへおねがいしまわ～、
百代・・・れん?にルーセン。」

「つづて三神院での居候生活が始まつた。」

第十一話「川神院つて城見たぐりつこ」やで～（後書き）

「」意見「」感想お待ちしております。

W A W O W A

第十一話「新しい友達ー?」やや（前書き）

「意見」感想お待ちしております。

第十一話「新しい友達ー?」やで~

おはよ「私と戦え!」う、じんに「聞いてるのか!」おは、じん「おーー政隆」ばんは。俺だ。

見たとおり今、百代さんに決闘を申し込まれてる。じつちからしたら迷惑以外の何もんでも無い・・・

「百代さん・・・嫌です・・・決闘なんか、めんどくさいんです、だるいんです、疲れるんです。」

「早く死合おひー。」

「あーわすれてたーそりこえれば今日用事があつたんだー。つといつわけで失礼しますー!」

「あつおーー。」

「私が追いつけ無いだと・・・面白い、浅井政隆・・・」

・・・逃げたは良じものの寒氣がある・・・

「あつーーあたかーーー。」

「どうしたん小雪?ほんでなんで川神院の前に居るんだ?」

「あわたかのとこに遊びに来たんだよーー。」

「お～、じゃあ遊びに行こか？何処行く？」

「ん～・・・じゃあ僕はまさたかに任せるとー。」

任せられて困なんねんけど・・・

「じゃあ何へんぶひつくな？」

「うんー。」

しばらく歩いて小雪がちょっと疲れたっぽいから駄菓子屋に寄る事になった。

「小雪は何買ひつ？。」

「僕はマシユマロー。」

「わかった、んじゃ俺が奢つたる。はよ選び。」

小雪がマシユマロを選んでる途中、男の子一人（イケメン）と後々ハゲそう？いやそつやないか今フツサフツサやし・・・（に声掛けられた。）

「おい！お前いま俺の事、後々ハゲそうって思つたよなあーー。」

「準、初対面の人に失礼ですよ、すいません・・・えつとー。」

「ああ俺は浅井政隆や、よろしく。」

「はじめまして、政隆君、私は葵冬馬。」

「井上準だ。ようじくな。それより俺がハゲそいつ じびつこいつだよ！」

「そつ、そんな事思つてへん。なんか一人イケメンやうへせやからモテるんやろな～って・・・」

「それより政隆君、彼女がお待ちですよ？」

「おわっ！忘れてた！あと彼女ちゅうしな！・・・おい小雪～つ、選んだか～？」

「うん～まさたか、この人達だれ？」

「あ～、冬馬、準、この子の名前は小雪。仲良うしたってや？」

「こんにちわ、小雪わん、私の名前は葵冬馬と申します。」

「ユキで良いよ。」

「小雪～、俺もユキつて呼んでええ？」

「あわたかはだめ～。僕はまさたかには名前で呼んでほしいんだよ！」

「うん・・・オッケーわかった。」

「俺ずっとスルーされてる・・・」

「準、戻つて来てください。」

「あ～、わかつたよ、若。俺は井上準よひしへ。ユキ。」

「うんー。よひしへ。準ー！」

「じゃあ俺ら4人は友達な？良い？」

「つー良いんですか？政隆君ー！？僕の父は悪事を働いたんですよー？」

「そんなんお前のねとんの話や？関係無いやん？なんか問題あるん？」

「つーでもーーー！」

「親は親、子は子。そんなん氣にしてたら幸せ逃げてくれー。」

「・・・ありがとうございます。政隆君。よひしへお願いしますね？」

「若がやうやうなら・・・よろしくな、政隆、ユキ。」

「うんー。タ馬ー。準ー。またこっしょに遊びー。」

「俺は今、川神院で世話なつてる。暇になつたら遊びに来いよー。」

「わかりました。準と一緒に遊びに行きますね？」

「おつ俺も若とユキと二人で遊びに行くからな？」

「んじゃ待つとくわ！」

こうして川神での友達が三人に増えた！！

第十一話「新しい友達ー?」やで～（後書き）

「意見」感想お待ちしております。

第十一話「実家? ああ」の頃挨拶回りで帰つてへんなあ」やで〜（前書き）

「意見、『感想お待ちしております。』

第十一話「実家へあるひの頃様移つて帰つてへども「やで

今、俺は小雪と、冬馬と、准と遊んでる。

俺の実家で・・・

あひるーーーー?なごで実家ーーーー?

時計とかの音がひじり、3日前である。

「小雪へ、おまへひつと、冬馬と准はーべ

「冬馬と准はまだ来てないよ、それよつまたか~マシユマロロ食べ~?」

「おひー。たまゆらさん。ホンマにうさぎかなあ・・・

「おひるさんやひるさん。」

「うさーーーがとーーー。」

「お待たせしてすこません。」

「スマンーー待つたかー?」

「准めひらひ待つたで。・・・あひるは待つてないしな~。」

「つじオイッ！なんで俺だけなんだよ！なんで若だけ待つてないんだよッ！？」

「まあまあ文句言つくなや。冗談やで。んじゅ今日は何して遊ぶ？とりあえず駄菓子屋行く？それとも川神院に行く？」

「僕、まさたかが住んでるとこ見たーい。」

「んじゅ川神院行こか。冬馬と準もそれでええ？」

「私もそれで良いですよ。準は？」

「俺も若が良いんならなんでも良いぜ。」

「良し！決まりやな。んじゅ行こか！」

川神院

「鉄心さん、ただいま戻りました。」

「おおちよじよ。今さつき政綱から電話が掛かってきたのあと5分後に川神院に着くから待つて欲しいしそうじゅよ。」

「ええーーー俺今から友達と遊ぶ予定なんですけどーーー」

「おーい政隆ー迎えに來たでー。」

「早つーていうか珍しく車ー！」

「ん？ 政隆へ、 はの子等だれ？」

「えつといおぼわ～つとした雰囲氣の子が小雪」

「つべーー、 よりしくね～。」

「ほんどうのイケメンが冬馬。」

「よろしくお願ひします、 政隆君のお父さん」

「最後に後々ハ・・・ゲフンゲフン、 えつといこいつが準」

「今、 ハゲつて言いかけたよなッ！・・・・・えつと政隆の親父が、
よろしく。」

「はーい、 みんなよろしくね。急で悪いんやけど政隆今から長浜の
家に帰らなきやいけないんやね。 んでみんなには悪いねんけど政隆
貰つてつてええ？」

「えー、 僕はまさたかと離れたくなこよ。」

「ハハハハ、 ユキ、 わがまま言つちやうこけません。」

「準のハゲ！」

「ハゲてねえよーー！」

「しゃーない、 小雪ひやんと冬馬君と準君やね。 おいらが嫌じやなき
や長浜一緒に行く？」

「うそー…嘘いの？」

「本当に良いんですか？政隆君のお父さん。」

「良いのか？政隆の親父？」

「あー良いよ良いよ、あーボクの父前は政綱やで。よろしく

とこうわけでこの状況に至るわけだ・・・

余談だがおとんは帰り道寄り道しまくって帰るまで3日掛かったのはまづまでもない・・・

第十一話「実家? ああ」の頃挨拶廻りで帰つてへんなあ」やで〜（後書き）

「意見、『感想お待ちしております。』

第十四話「カラオケ? 何だろ・・・ 戦闘機にのりながら歌を歌ってる男が頭に浮

「」意見、「」感想お待ちしております。

第十四話「カラオケ? 何だろ・・・戦闘機にのつながら歌を歌つてゐる男が頭に浮

浅井邸にて。

「ねえー、冬馬ー、準ー。まさかどーに行つちやつたの?」

「ユキ、政隆がさつき、友達が近くに来てるらしくから、連れてくるつていつてたじやねえか。」

「ふーー!」

「なんでオレに当たるんだよーつーかすぐ帰つてへるだろ?」

「うーん・・・」

「わーいですよ、ユキ、政隆君はすぐ帰つてへるつて言つてましたし。」

「

「・・・わかつた。」

「おーい今帰りましたよーつ、ただいまー。」

「あーーーまたかだーーまたかーーーー。」

「おーーー小雪娘こ子にしてたか?」

「うーーー。」

「・・・準、いつもすまんな、小雪駄々こねんかつた?」

「あー、別に気にしてないから。それでお前の友達は?」

「あれ？ さつさまでそこには居たのに・・・」

「ウニイ。マシユマロ食べる~?」

「隠れでんと出でこなよ、由紀江。」

「あつあのー！政隆さんー！」の方達は？」

「あー紹介するわ、みんな、挨拶したつて」

「ウエーイ！ 僕小雪だよー！」

「私は葵冬馬と言います、よろしくお願ひします。」

「ああ、俺は井上準、よろしくな。」

「えつと、えつと。」

「由紀江、落ち着けよ。」

「まひはこーーあの、まひ黛由紀江と申しますーーみひこーおながこしまーー」

「はい、よろしくお願ひしますね。黛さん。」

「へーイ、葵つかー、そんな堅苦しい呼び方じゃなくてしまつかって呼んでくれよ。」

「由紀江、初対面の人には松風をむちゃんと紹介せなアカンやろ?」

「あつー忘れてましたー松風、」挨拶を。

「イエーイ、オラ松風。まゆつちの友達だぞー」

「えつと・・・まゆしくな、まゆ・・・つかーと松風・・・?」

「まゆしくねーー。まゆつちー松風ーー。」

「よのしへお願ひしますね。まゆつかわると松風さん。」

「はーつーー。」

「んじゃ何して遊ぶ?つかにあるもん言つたらカラオケとかあるけど?普通にゲーム?」

「カラオケしよーー。」

「つーか政隆ん家なんでカラオケあるんだよッ?」

「いやーおとんがカラオケ行くんめんどーからつて買つておつた」

「・・・お前もやつだけど、お前の親父もなんか凄いよな・・・」

「ん?やつか?由紀江なんか歌つてみてよ。」

「さういー。わつ私」ときがそんなー。」

「ええやん、ええやん。んじゅ」れとかぢりへ。」

「えつーあのーすくなおーに好きーとつ言える私つもー・・・」

「上手いなー由紀江ーもつかい歌つてー。」

「まゆつち上手いねー」

「あつあの・・・」

「チャンスだぜー、まゆつちー。まゆつちが上手こつて言つてくれてるんだ!がんばつて歌えー」

「そうですね!松風!私、頑張りますー。」

「でもオラも歌つてみてえよまゆつちーー。」

「じゃあ、松風歌つてみてへだせーー。」

「オラ頑張るぜーー。」

「ねえまたかー、僕おなかすいたー。」

「もうそんな時間か・・・んじゅ今日はしまこじよか?由紀江ーみんなで一緒にじ飯食べるだー。そろそろカラオケやめやー。」

「はっはーー」

「オーラ、歌えなかつたぜ・・・」

カラオケで由紀江が楽しそうにしてたし、みんなと仲良くなれたみたい。

良かつた良かつた！

第十四話「カラオケ? 何だろ・・・ 戦闘機にのりながら歌を歌ってる男が頭に浮

「」意見、「」感想お待ちしております。

第十五話 「マイクロ波で日本では加熱せずに食べ、外国では加熱して食べ」

「意見」感想お待ちしております。

第十五話「マシュークローハイ日本では加熱せざる食べ外国では加熱して食べたり」と

甘いものはまあまあ好き俺だ。

今、俺達はおとんの帰りを頭で待つていろ。

「あの、まゆひちわん。」

「なんでしょうか、葵さん？」

「くーーー、葵ひちー。たんはーうねえぜー、たんせー。」

葵ひちひて結構言こいくしな・・・

「はー、松風わかりました。ではまゆひ、やの松風とは何者なんですか?」

「ああ、オレも気になる、教えてくれ、まゆず・・・じゃなくてまゆひ。」

「あーーー!松風はですね、父が作ってくれた木彫りのストラップですーーー!」

「ほーーー、やうなんか。大成さん凄いな。ちなみに名前の由来は前田利益公の愛馬から来てるの?」

「まー、はーーー!まつですよーー色が黒いので。」

「まつなんかー!俺やつたら三國志とか百段かなー、あーーーでも近江

黒とかも良いかも！！」

「なに言つてつか全然わかんねえ。若わかるか？」

「多分ですけど歴史的に有名な馬の名前とかじやないでしょうか？」

「ウエーイー僕も馬欲しい！」

「馬飼うとかシャレにならないほど金が掛かるんだぜ。無理、無理。」

「えー！ ブーブー。」

「あーあのー話は戻りますが、それでですね、松風は九十九神なんです！」

「ねえ準（）、九十九神ってなに？？」

「オレに聞かれてもわからんねえよッ！ 若はわかるか？」

「九十九神とは古くなつた道具などに付く神だつたと。でも松風は由紀江さんが生まれてから作つたものなら、そんなに長い年月経つてませんね。」

「多分、アレちゃう？ 思いが強いから、的な？ というか九十九神より九十九髪茄子の方が興味ある、朝倉宗滴公の持つてた茶器から松永彈正までの・・・」

「多分、そだと思ひます。いつもありがとうございます。松風。」

「ねえまたか〜、どうしたの？」

「ユキ、政隆は今、自分の世界に入り込んでる。邪魔しちゃ駄目だぜ？」

「政隆君は歴史が得意なんですね。一キモ一縦は歴史勉強しますか？」

「うんっ！僕も一緒にまさかと勉強する！」

「ただいま。あれ？ また政隆、歴史モード入ったん？ まあいつか、んじゃご飯作るから待つてね～」

「あつ！あの私も手伝つて宜しいでしょうか？」

おー！ ありがとう、曲江ちゃん。 じゃ、野菜刻んで？」

「はいっ！」

それから30分後

「みんな～出来たよ～」

「ウエーイ！ マシユマロ入れる～」

•
•
•

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「ウハーハ」

「あうあうあう」

マシコマロ鍋の、完成である。

第十五話 「マシュー・マローハー日本では加熱せずに食べ、外国では加熱して食べ」

「意見」感想お待ちしております。

第十六話「隠のむかし話」やや（漫畫也）

「意見」感想お待ちしております。

第十六話「帰るのもいい」やで

「マシュマロ鍋事件の次の日……

「おーい政隆」。

「ん？ 何？」

「川神院から連絡あつてた、そろそろ帰つて来なさい。だつてさ
う。

「えー！ 僕もつとここつたいよ。」

「ユキ、わがまま言つちやいけません！」

「ふー。準のハゲー。」

「だからオレ、ハゲてねえッ！ ！」

「そいやで、ユキ。準はハゲてないで。……後々ハゲんねん！ ！」
「政隆もかよッ！ ！」

「準大丈夫ですか？」

「若……」

「後々ハゲたら育毛剤プレゼントしますね？」

「若もかよシ……。」

「冗談やつて、スマンな、準。」

「私もつこ準のコトアクションが面白かったので。」

「ウハーバ。」

「オレやんなにアクトション面白このか、オレ……。」

「まあ準はまつとこで、帰るか?」

「オレ、置を去つかよシー。」

「ほんで、おとこ、由紀江、帰りビリすの?」

「ややねー、由紀江にやさしいわね。」

「まつーあつあの……。一人で帰れますー。」

「無茶せんでこよ、由紀江。大成さんに迎えに来てやひつか俺らと一緒に車で帰るか、どっちが良二?」

「やうだやー、まゆひやー。あれいちが送つてくれるつて言つてん
だから送つてもいいやー。」

「松風まで……じや、じやあ、私は政隆さん達と一緒に處です
……。」

「オッケー、んじやおとん、ついでに由紀江の家に寄つてな。大成さん、冬馬達のことを紹介するし。」

「アツ解。んじゃ大ちゃんと」レシ「ゴーー。」

「えつ！？大ちゃん！？」

「あ～、おとんが付けたらしい大成さんのおだ名やで。」

「そうだつたんですか！」

「お~い、冬馬、準、シートベルトしめたか？あと小雪~！いつまで蝶々追つかけてんねん、はよせえよ~。」

「ウハーラ。またか~、マシロマロ食べる~？」

「ねーおねえこ。んじや加賀に一回帰る。」

大成さんに会うの久しぶりやなあ。楽しみや！

第十六話「歸のゆめ」やや（後書き）

「意見」感想お待ちしております。

第十七話「友達の親にあこがれつゝに結構疲れ」やや（前書き）

「意見」感想お待ちしております。

第十七話「友達の親にあこがつて結構疲れる」やで〜

加賀・・・そういうや、修行に行きますとか、言つときながらすぐに川神行つたさかいにいつぺんも大成さんと会つて無かつたな・・・怒つてないかな。

まあ氣にしてもしゃーない！

「大成さん、お久しぶりです。」

「久しぶりだね、政隆君。政綱も久しぶりだな。」

「・・・政隆が・・・敬語を使つてるッ！？」

そこまで驚くことか・・・？

「おい準！俺が常に敬語を使つてないからつてビックリすんなよ！大体俺は「俺が思う尊敬できる人物+自分より強くて好戦的な人物」にしか敬語は使わんの！」

そう「好戦的な人物」には使つよ・・・

「・・・細かい説明ありがとよ。」

「どういたしましてつと。それより由紀江、大成さんに冬馬達のことを紹介したら？」

「はうつーそつそつですねーあの父上、私のお友達を紹介しても宜しいでしょうか？」

「おお！由紀江！政隆君以外の友達が出来たのか！」

「うひや喜んだるな、大成さん。やつぱ娘に友達が出来て悩み事も減ったんやうな～。」

「うこや沙也佳ちゃんは仲良い子とか友達いっぽい居ひこし、由紀江に友達が出来てうれしいんやろな～。」

「私は葵冬馬と申します。由紀江さんとは仲良くなせて頂いてます。」

「ア～、オレは井上準つて言こます。めゆ・・・じやなくて由紀江さんとは若と一緒に仲良くなせてもらひつてます。」

「ウエーイ、僕、小雪だよ～。めゆつちとは友達だよ～。」

「みんなよろしくね、私は薫大成、皆これからも由紀江をよろしくね。」

「大ちや～ん、そろそろ政隆達を川神に連れて帰るわ～。んじや、またね～。」

「ああ、またな、政綱。皆もまた来てね。」

「あつあのー皆さん、また遊びましょ～ね。」

「また遊びに行くわ～」

「また来ますね。」

「ねいー。こじやまたな。」

「ウハーハ、またね～。」

「まひまひー。」

・・・今から川神行くんめぐらへせんー。

第十七話「友達の親にあこがれつゝて結構疲れる」やや（後書き）

「意見」感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9699x/>

真剣で浅井に恋しなさい！

2011年11月23日20時56分発行